

研究・調査報告書

報告書番号	担当
18	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Characterizing binge drinking among U.S. military Veterans receiving a brief alcohol intervention. 簡易的な飲酒への介入を受けた米軍退役軍人における一過性多量飲酒者の特徴	
執筆者	
Cucciare MA, Darrow M, Weingardt KR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addict Behav. 2011 Apr;36(4):362-7.	
キーワード	
一過性多量飲酒; 米軍退役軍人; 簡易的な飲酒への介入; 血中アルコール濃度	
要 旨	
背景: 簡単な Web ベースの飲酒への介入 (BAIS) は、大学生や一般成人で一過性多量飲酒を減らす効果があることから、米軍で使用される機会も増えている。しかし、退役軍人集団における一過性多量飲酒の関連要因についてはほとんど知られていない。よって、BAIS を支持する研究結果を一般化し、退役軍人集団での一過性多量飲酒への対処に用いることの妥当性は不明である。本研究は、BAIS を受けた米軍退役軍人(主として男性)において一過性多量飲酒に関連する特性 (基本属性、メンタルヘルス要因へのコーピング、トラウマとなるイベントへの事前暴露、および飲酒習慣改善につながる要因、等) を明らかにするために実施された。	
方法: 男性を主とした (93.5%) 退役軍人のサンプル (N = 554) が、簡易的評価と個別フィードバックで構成される BAIS を修了した。	
結果: 比較的若い退役軍人は、PTSD やうつ症状 (悪夢・フラッシュバック・睡眠困難、等) に対処する薬物使用/飲酒と、性的暴行経験が、高い自己申告ピーク血中アルコール濃度および直近 90 日の大量飲酒エピソードと強く関連していた。	
結論: BAIS は退役軍人における一過性多量飲酒問題を評価するための有望なアプローチかもしれない。しかし、BAIS を受けた主に男性退役軍人の集団における一過性多量飲酒は、大学生の集団ではあまり認められない複雑な要因に関連しているかもしれない。それゆえ、退役軍人において BAIS の有効性を示す研究が必要である。	